

サービスマーケティングで学び知ったこと

活動先：NPO 法人ゆめじろう 社会福祉法人松寿園
クラス：岡多枝子先生

この一年間のあいだに、私はたくさんの活動を経験し、その中から自分が成長するための大切な物をたくさん手に入れた。実際に活動を行っている NPO の方々から話を聞き、活動に参加し、自分にとって足りない物や気付かなかったこと、自分でも出来ることなどがあるということを知り、自分の可能性といったものに気付かされた。それでもできないことというのはやはりたくさんあり、それを乗り越えるためには何をすれば良いのか、何をすべきなのかを知り、この壁を乗り越えるためにまた自分の知らない知識や知恵を手に入れ、それによりまた新しい課題を発見することが出来る。

活動という物は、一人の力だけでは到底作り出すことができない物をたくさんの人の協力によって少しずつ形にしていく物である。その過程の中に校内だけでは知りえることの出来ない貴重な体験が大量に埋まっており、それを掘り出し磨き上げ自分のものとすることによって、活動を通じての学びやその活動の中の足りない物などを手に入れることが出来、またそれを活動に反映することによってまた新たな経験を掘り出すことが出来るようになるのである。

今、自分に足りない物があるならば、その足りない物を補うために仲間とグループを作り、このグループの中で一つの完成された答えを作ることが大切なのである。そのためには自分をもっと深く知り、他人のことも知り、自分に無い物を持った人を見つけることも重要になり、すくない人数の中からを見つけることは至難の業であるが、足りないながらもそれを補い、それでも欠けている部分を活動の中で埋めていくことによって自らの大きな一歩を踏み出すことになるのである。

しかしそのなかでも自分を知ると言うことはとても難しい物である。自己を客観的に見ると言うことは、自分の意識を他人に置き換えそれを眺めるような物であり、そのようなことが出来る人物は多くは無いからである。そのため自分を知るためには他人からの評価などを収集し、その内容から少しずつ判断していかなければならないのである。一年たった今でも、自分とはどのような人物なのかはあまり分からなく、そこからまた新しい学びを知ることが出来るのではないかと感じる。

この一年間の活動を通して、どのような場所においても少なからず問題は発生しているものである。住人の高齢化による収入面、労働力などの低下、それに伴う町の衰退、団体の活動に対しての無関心、そのほかにもまだ多くの課題や問題があるということを知った。地域住民にたいして活動しようとしていても、その地域住民の認識が低く、活動に参加する人数が少ないということが起こり、なぜこのようなことが起こるかを考えると、地域のコミュニティがうまく機能しておらず、そのために活動の認知度が低くなってしまったことが考えられる。

地域からの人口の流出は、その地域で行うことの出来る仕事や事業がなく、産業の発展を望むことが出来ないことに起因していることが多く、この問題を解決していくには、その地域の知名度の向上や特産物の開発その地域の特色にあった町おこしなどを行い、それによって流出した人口を取り戻し、新たな就職などを考え長期的なスタンスで関わっていく必要があると考える。過疎化した地域には対策として措置法が取られているが根本的な解決には至らず過疎地域は増え続けている。過疎地域が増え続けることによって、地域の格差が広がり、結果地域の中での福祉に対する補助などの内容に差が現れてしまい、平等な福祉サービスの提供に支障が出てきてしまう。そのため、このようなことによる格差が福祉の基盤を設計するに当たり大きな障害になっているのではないかと考え、この現状を打破するためには企業が過疎化の進んだ地域に対して誘致を行い、就職体制を整えることや、その地域に残っている中小企業へ支援を行うなどが必要になっている。

私達は、大学に入ってから福祉に関しての学びを多く行ってきたが、やはり現場で知ることが出来ることには、たくさんのメリットやデメリット、課題や問題など学び舎の中だけでは知ることの出来ない知識や知恵があり、それをどのように生かし育て有効に活用していくかはすべて自分にかかっている。そのことをしっかりと認識した上で今の自分に出来ること、すべきことを行い、少しでも社会に貢献することが出来るように、自信をつけて今後に行う活動の力にしていき、そこで得た知識でまた新たな知識を得ることで自分の心身の成長になり自己の確立や客観的なものの見方が大切である。そして今は高齢者・児童・障害者と幅広い対象者が対象となっている福祉社会、そして私たちの今後の課外活動、実習に必要なものである。

岡多枝子ゼミテーマ

教育と福祉のつながり ～サービスラーニングから得たもの～

